



食農学類

Faculty of Food and Agricultural Sciences



「農学専門教育」と「農学実践型教育」からなる
新たな農学教育により、食と農の課題に
主体的・創造的に取り組めるリーダーを育成します。

学類紹介MOVIEを
チェック!



■ 食品科学コース

■ 生産環境学コース

■ 農業生産学コース

■ 農業経営学コース



こんな人に学んでほしい

本学類では、食品産業や農林業の第一線で活躍することや、
行政や教育機関などで食品産業や農林業を支えることを目指す
意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと
考える学生を受け入れます。

- 農学の専門知識を関連産業や地域社会の実践的な取り組みにつなげる力
- 異なる専門分野との学際的な交流によってチームプレイを推進できる力
- グローバルな科学的知見や国際比較の情報を地域の課題解決に活かす力
- 温かい眼差しと冷静な分析力によって地域社会への貢献を持続できる力

SHINING GRADUATES



社会で
活躍する
卒業生

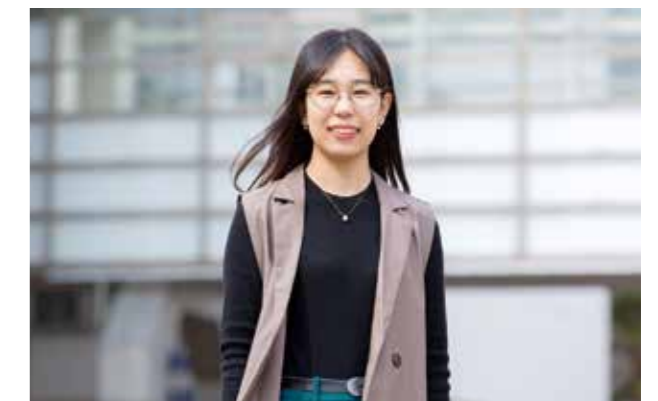
Interview

株式会社セントラル・フルーツ
食農学類 食品科学コース 2023年3月卒業

阪谷 うるさん

震災を経て進化していく福島県を、 農業の現場から学び発信する

高校で調理を学び、その材料を作る農業の現場を知りたいと思っ
ていた時にちょうど食農学類が開設されました。先輩もおらず不安も
ありましたが、新しいことにチャレンジするのが好きなので、一期生な
ら自分たちで自由に開拓できるかと思ひ飛び込みました。福島は自然
に溢れ、大学の農場だけでなく農家さんも近くにあるので、フィールド
ワークで様々な経験を積みました。食農実践演習では福島市の桃を
使った地域活性化に関わり、風評被害の払拭などを調査しました。コ
ロナの影響で授業では企業とのコラボなどはできませんでしたが、同
級生と「食農カフェサークル」を立ち上げ、福島の食材を使ったお弁
当を作ってイベントやマルシェに出店しました。



「食」は人の一生に絶対必要なものですし、そこに携われることをと
ても誇らしく思っています。就職先は食と農業の両方に関わることが
できる会社を選びました。大学で得た学びを活かし、食の楽しさや食
品ロスを減らすための食材の活かし方などをお客様に伝えていけれ
ばと思います。

卒業後の 主な進路

- 食品関連企業
- 農業生産法人
- 農林技術系公務員
- 高校教員(農業、理科)
- 農業・農村起業家
- バイオマス関連企業
- 医薬品メーカー
- 試験研究機関
- IT・エレクトロニクス産業
- 復興支援員
- 観光・宿泊企業
- 土木建設企業
- 流通企業 など

2年次 後期からはじまる「農学専門教育」

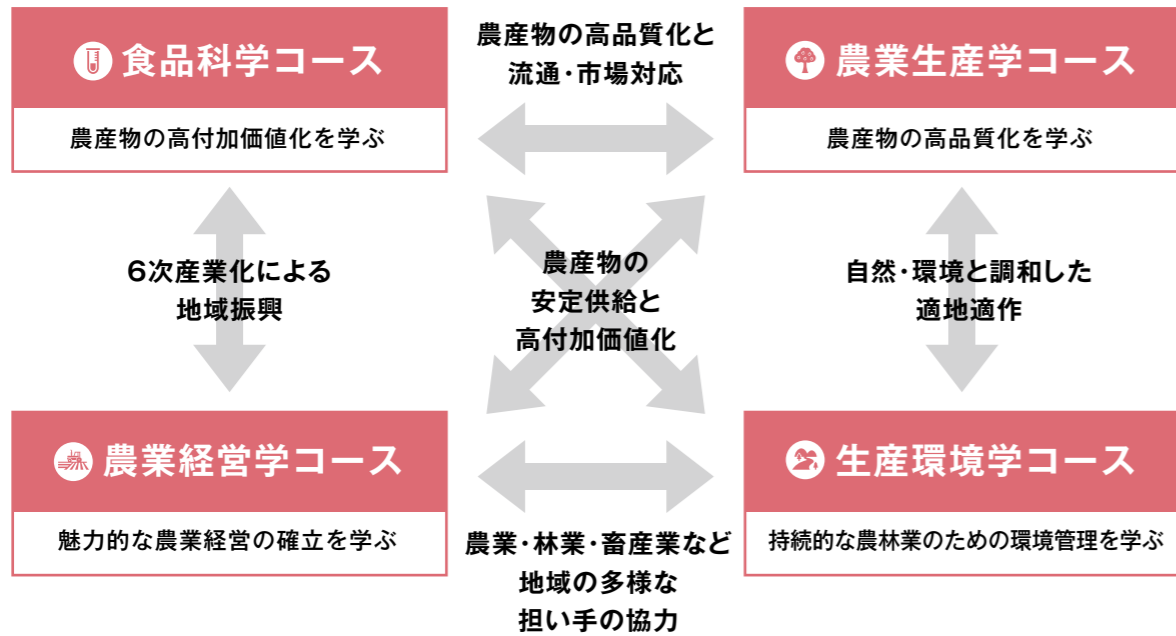


農学専門教育

4領域を学び食と農のプロになる

多角的に学べる

フードチェーンの上流にあたる「生産環境学」、中流の「農業生産学」、下流の「食品科学」、そして全体を見通す「農業経営学」という、4つの履修コースから専門的に学びます。専門知識を身につけるだけでなく、各コースが有機的に結びついた教育を実施。近年重要視されている「消費者視点で考える農産物生産」など、専門分野を超えた学際的な思考力を養います。



食品科学コース



- 主な科目
- 食品機能学I・II
 - 食品分析学
 - 食品素材科学
 - 食品加工学I・II
 - 食品保蔵学
 - 発酵・醸造学I・II
 - 食品安全学

食品の栄養素や機能を分析するための専門的な知識と技能を身につけるコースです。併せて安全性やおいしさなどに優れた食品の製造を理解し、新商品開発に挑戦できる人材や、発酵や醸造学の学びを通して地域の食の伝統的な強みを活かせる人材の育成を目指します。

特徴的な科目

食品加工学II

食品加工により、安全性、保存性、栄養性、健康機能性、嗜好性、利便性などが向上し、付加価値が生まれます。本講義では食品の加工工程による変化を科学的に学びます。



食品分析学

食品分析学では、一般成分分析法、機器分析法について最新の食品研究の動向や福島県内外での事例などを交えて解説を行うことで、多成分不均一素材としての食品の適切な評価、最適な制御法を学び、将来各人がそれぞれの現場で活用できる基礎知識の修得を目指します。



農業生産学コース



- 主な科目
- 作物学概論
 - 作物育種学
 - 環境保全型農業論
 - 蔬菜・花き園芸学
 - 果樹園芸学
 - 応用昆虫学
 - 植物病理学
 - 土壌科学
 - 植物栄養学
 - 飼料資源学

作物栽培に関する最新技術や知見を駆使し、作物生産、食料生産、栽培資源利用などの農業生産に関わる諸問題を解決する専門知識と技術を身につけます。その上で新品種の開発と既存品種の見直し、栽培技術の革新、病害虫の農業被害管理といった技能の修得を目指します。

特徴的な科目

応用昆虫学

昆虫は、地上で最も繁栄した動物群で、農業を始め人間生活と深く関わっています。本講座では、昆虫の生理・生態の基礎、主要作物害虫の生態・被害、様々な防除法、環境保全型の害虫管理法等について学びます。



果樹園芸学

福島を代表する果樹に関して、「福島の飛躍」を目指し、樹体生理に基づいた栽培方法の解析、ICT/AI技術の導入、海外輸出に関連した流通技術、「復興」をキーワードに放射性Csの果樹園における動態に関して学びます。



生産環境学コース



- 主な科目
- 森林科学
 - 森林生態系管理学
 - 森林保全学
 - 森林利用学
 - 里山管理論
 - 農村計画学
 - 環境水利学
 - 土壌物理学
 - 農業リモートセンシング
 - スマート農業論

生産環境の保全と活用に対する専門知識や技術を身につけるために、森林・農地・水環境等の生産資源と生産活動を管理・運用するシステムを学びます。また本学類以外のコース科目の学びを通して、多角的視野から生産環境を探求し、保全と活用を実践できる人材の育成を目指します。

特徴的な科目

森林科学

森林は生態系の一部であるとともに、歴史的に人が大きく関わって現在の姿があります。木材資源、生物多様性の保全、地球環境問題、放射性物質による汚染、及び地域の農業との関係について実例に基づき学びます。



農業リモートセンシング

リモートセンシングは、宇宙や空から非破壊・非接触で地表面の状態を測ることができます。農業リモートセンシングでは、この技術の原理と実例を基に農業分野での活用方法、特にドローンを用いた方法について学びます。



農業経営学コース



- 主な科目
- 農業経営学
 - 農産物流通論
 - 食品マーケティング論
 - フードシステム論
 - 農業経済学
 - 協同組合学
 - 農業政策学
 - 農林資源経済論

フィールドワークを重視した農業経営学を軸に、生産から加工・流通を経て消費に至るフードシステムに関わる問題を解決する知識と技能を身につけます。また他コースの科目を履修することで得られる多角的な視点で、今後の地域農村社会の現場を担える人材の育成を目指します。

特徴的な科目

農業経営学

市場ニーズに対応した農業経営のあり方・経営戦略を、地域の事例も踏まえ考えていきます。農産物の市場・販売戦略、農場の規模と集約度、作物選択の理論と財務諸表に習熟し、農業経営者に必要な能力を涵養します。



農林資源経済論

森林や里山の資源を循環利用することにより集落や地域経済の活性化をどう実現するか理論面・実践面から学びます。「森は農の恋人」の考え方や、震災・原発事故の影響からの「里山の経済」立て直しの課題を考えます。

